
BL少女

高里奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BL少女

【Nコード】

N2213Z

【作者名】

高里奏

【あらすじ】

私、館崎望はどこにでも居る平凡な女子大生。けれども周囲からは常に「お前の趣味ありえねえ」の一言。法衣フェチは異常ですか？

法衣フェチ服飾系学生の妄想的ラブコメ？（だといいな）

序章

私、タテザキノソシミ館崎望はどこにでも居る普通の服飾系大学生、のはずだ。

容姿も才能も平々凡々。性格はのんびりマイペースできつめのツッコミ派。人よりちょっとばかり気が長いのか手縫い作業が嫌いじゃないのが自慢というくらいに極めて普通の大学生だ。

私がここまで平々凡々なのは、周りが濃過ぎるから、という説もある。何せ私の周りの学生といたら腐女子がヲタクしかない。所謂、ギークが多い。

入学早々声を掛けてくれたトモは第一声が「BL平気？」だった。私は思わず「好物だよ」と答えたが、まさかBLの意味が同性愛だとは知らなかった。

そして、トモいわく、私の解釈はありえないもの、らしい。

「望、次のショーのモデル決まった？」

「まだ。あのさ、高峰君に頼みたいんだけど、無理かな？」

「高峰君？ 音楽科の？」

「うん」

「ちなみにどんな衣装？」

トモは入学以来の親友で、時々妙に的確なアドバイスをくれるので重宝する。

今日もエントランスで自販機のココアを飲みながらトモにデザイン画を見てもらう。

「……ねえ」

「何？」

「何でこの着てる人の坊主頭に指定入ってるの？」

「え？ 嫌だな。決まってるじゃん。これは真言宗の法衣をコンセプトに時代に合わせモチーフを足してユニセックスなイメージにしつつ、ファッションと宗教の融合により解脱を目指して……」

「いろいろおかしい！　ってかあんた、高峰君に丸坊主にしてもらおうなんて企んでたの？」

「そうだけど」

「絶対却下されるって。彼、ナルシストだし、髪は男の命とか公言してたよ」

マジか。

私は思わず幻滅した。

「高峰君って、絶対法衣似合うのに」

「何ソレ、法衣に似合う似合わないあるわけ？」

「そりゃあるわよ。ほら、スポーツ科の市村君はジャージ似合うけどメディア科の坂田君は全く似合わないでしょ？　あれと一緒」

私の力説にトモは溜息を吐いた。

「そっぴやあんた、BLをぼーさんライブとかありえない解釈した人だった」

「あはは」

うん。生坊主の新しい用語だと本気で思った。

「今でもぼーさんラブの方を推すわよ？」

「あれ？　空海×最澄みたいなの？」

「あ、そんな感じ。あ、でも私は法衣で満足」

濃厚な部分はトモにあげると言えば要らんわ！　と小突かれる。

「あんた、いろいろもったいないわ」

「え？」

「黙ってればそれなりに可愛いのに、口を開けば法衣だ坊主だって…… 仏教に熱心ならまだ分かる。百歩譲ってアリ。けどさ…… 坊主ヲタクって何事よ。坊主ラブって。おい。野球少年の坊主頭が好き、とか神父さんって神聖な感じであこがれるよねっていうなら分かる。けど、あんたの場合さ、修行僧萌えとかわけわからないポイント突いてくるでしょ？　ソレ見て男子ドン引きしてるよ？　無しだわ館崎、みたいな」

「えー、みんな出家すればいいのに。そしたら、仏教が広まって、

お布施が盛んに行われて、みんな幸せ、お坊さん増えて法衣が売れて着物屋さんも幸せ、法衣の人がいっぱいみんな幸せ、私も幸せ」

「……それで幸せなのは寺とあんただけだと思っけど？」
心底うんざりした顔でトモは言う。

「それよりさ、前に頼んだコス衣装どうよ？」

「あれ？　なんか基督系だったから法衣アレンジしようと思っていらんことすな！」

ほかといい音で殴られる。

「法衣が好きなの！　悪い？」

「悪、くはないとしても何でも法衣アレンジしない」

トモはスケッチブックを取り出しながら言う。

「ねー、望」

「な、なに？」

いやな予感がする。

「ヌードモデルやらない？」

「絶対嫌」

「えー、望のヌード萌える。絶対萌えるって」

「いや、それなら水行してるお坊さんのが萌えるって」

「あんたに唆されて描いたらドン引きされたよ。去年」

そんなこともあったか。

「しょうがない。ヌードは無理だけどメイド服までならいいよ」

「それ、露出無いじゃん」

「じゃあ浴衣？」

「浴衣の方で」

「じゃあ、生地買ってくる」

「そこからかい」

トモの溜息。

それと同時に午後の講義の始まるチャイムが鳴った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2213z/>

BL少女

2012年1月1日01時47分発行